

国内出版社（日本電子書籍出版社協会など）や電機メーカーが日本語電子書籍の制作に使う統一規格を、「EPUB」に対応させることになった。

これは、この2月17日に、IDPF（International Digital Publishing Forum）が、電子書籍フォーマット「EPUB3」のドラフト版（Public Draft）を公開したからだ。これまでは、日本独自のフォーマットをつくる動きもあったが、結局は「EPUB」で統一されるものと思われる。



「EPUB」は電子出版物の事実上の世界標準フォーマット。XHTMLとCSSで構成されており、XML/XHTMLをベースにCSSでレイアウトを行なうことで、電子書籍としての体裁を整えられる。

今回の「EPUB 3」では各国語対応が進められ、縦書き／ルビ／縦中横／禁則／傍点など日本語組版仕様のサポートも大幅に向上する予定になっている。また、動画／音声といったマルチメディア関連機能などHTML5由来の機能も多数採用されている。